

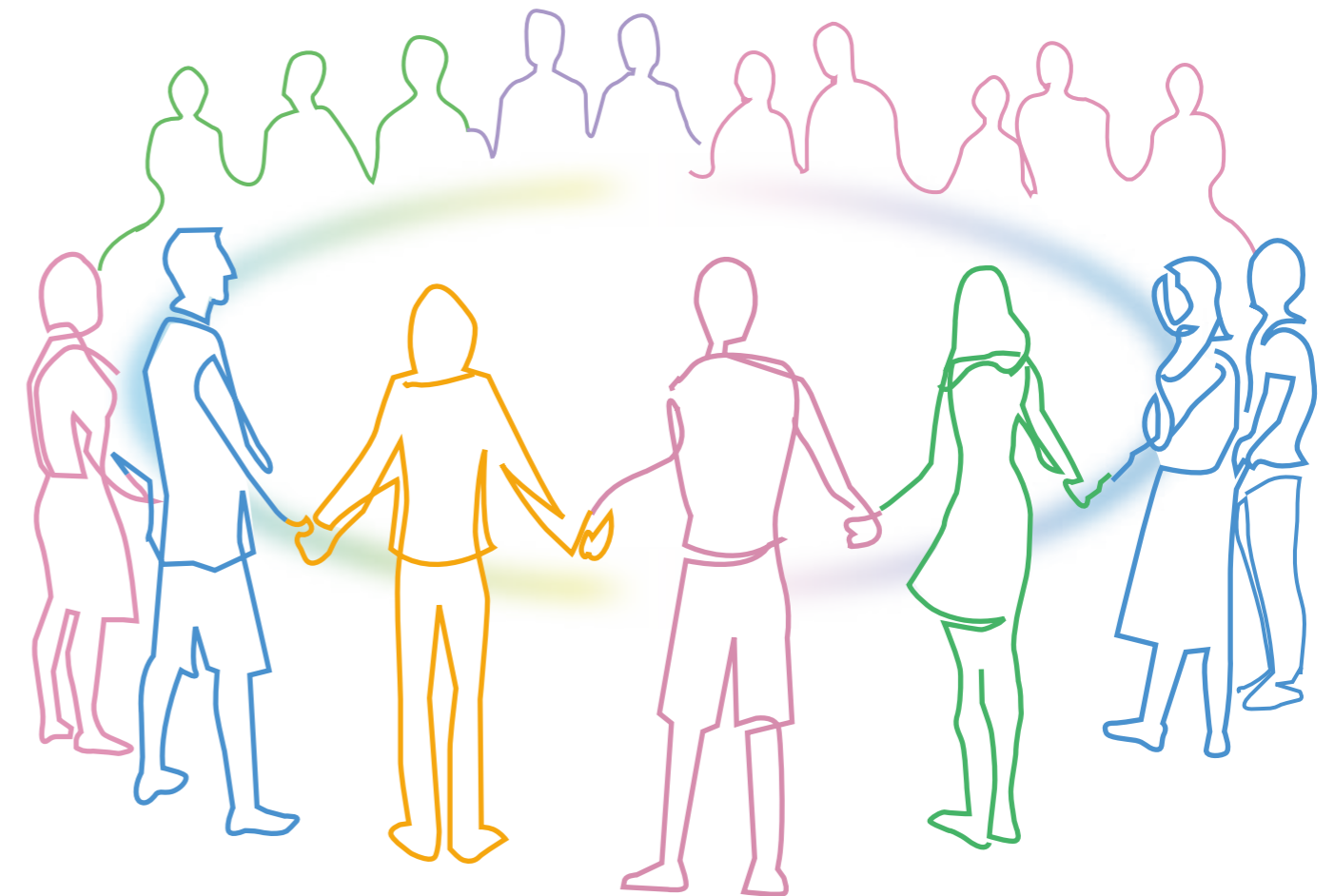
国立女性教育会館ボランティア

NWECは、ボランティアを事業運営における大切なパートナーと位置付け、ボランティア自身の多様な生涯学習を促進する場を提供。

- | | |
|----------------|--|
| ① 情報提供
及び交流 | 連絡会議(年3回)を実施するとともに、会館内にボランティアルームを設置し、会館とボランティア、またボランティア相互の連絡・交流を図っている。 |
| ② 研修活動 | ボランティアと会館がともに学ぶための研修事業として「ボランティア活動研究会」(年1回)を実施している。また、全国から多数の参加者が集う「男女共同参画推進フォーラム」をボランティア活動に必要な基礎的な研修として位置づけている。 |
| ③ 自主活動 | ボランティアの自主的なグループの活動・提案を受け入れ、会館はそれをバックアップしている。 |



交通のご案内



NATIONAL WOMEN'S EDUCATION CENTER

男女共同参画社会を実現するための推進機関



男女共同参画実現の拠点として

国立女性教育会館(NWEC)は、我が国唯一の女性教育に関するナショナルセンターとして、昭和52(1977)年に設立されて以来、女性教育指導者や関係者及びあらゆる分野での男女共同参画を推進するリーダーに対する研修や交流機会の提供、女性教育・家庭教育及び男女共同参画に関する専門的な調査研究、情報収集・提供の充実を図り、男女共同参画社会実現のための推進の拠点としての役割を果たしてまいりました。



独立行政法人
国立女性教育会館
理事長 内海房子

昨年12月に公表されたジェンダーギャップ指数(GGGI)2019において、日本の男女格差は153か国中121位と、2018年の110位よりさらに順位を落として過去最低となりました。特に政治分野では、前年よりも後退してしまうなど世界の趨勢に大きく遅れを取っており、政策・意思決定過程への女性の参画率の低さなどについて、我が国の男女共同参画社会の実現にはいまだ課題が山積しております。

NWECでは、こうした喫緊の課題に対応するための事業を2020年も引き続き展開してまいります。

昨年度は、医師・医学研究にかかわる女性たちをテーマとした企画展示「女性と医学展」によって、この分野における女性を取り巻く課題について考える機会を提供しました。第4回世界女性会議(北京会議)から25年の節目に当たる今年度は、「北京+25」をテーマとした展示を行い、これまでの国内外の男女共同参画推進の歩みを振り返りながら、これからの道筋を探ります。同時に、研修や調査研究分野においても、女性関連施設や大学等他機関とも幅広く連携しつつ、事業の更なる充実を図ってまいります。

引き続き皆様のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

目次

目的	2
沿革	3
事業	4
女性教育情報センター・女性アーカイブセンター	5
女性情報ポータル“Winet”(ウィネット)	6
利用状況・出版物の紹介	7
トピックス	8
施設	11
組織・決算	14

目的

独立行政法人国立女性教育会館(NWEC)は、女性教育指導者及び女性教育関係者に対する研修、女性教育に関する専門的な調査及び研究等を行うことにより、女性教育の振興を図り、もって男女共同参画社会の形成の促進に資することを目的としている(独立行政法人国立女性教育会館法第3条)。

NWECは、その目的を達成するために文部科学大臣より示されている第4期中期目標に基づき、「研修」「調査研究」「広報・情報発信」「国際貢献」の4つを有機的に連携させつつ各事業を実施している。



沿革

昭和52年 7月 (1977年)	文部省の附属機関として 国立婦人教育会館が設置される
昭和52年11月 (1977年)	開館式
昭和54年11月 (1979年)	情報図書館開室(昭和62年11月から 「婦人教育情報センター」 平成13年1月から 「女性教育情報センター」と改称)
昭和57年 6月 (1982年)	皇太子殿下・同妃殿下行啓
昭和62年 5月 (1987年)	利用者100万人を超える
平成 6年 4月 (1994年)	「国立婦人教育会館将来構想検討委員会」が 「国立婦人教育会館の将来について」を報告
平成 8年11月 (1996年)	利用者200万人を超える
平成 9年 1月 (1997年)	愛称を「ヌエック」に決定
平成13年 1月 (2001年)	名称を「国立女性教育会館」に改称
平成13年 4月 (2001年)	独立行政法人化
平成18年 4月 (2006年)	女性情報ポータル “Winet”(ウィネット)公開
平成18年 6月 (2006年)	利用者300万人を超える
平成20年 6月 (2008年)	女性アーカイブセンター開設
平成22年11月 (2010年)	研修棟、宿泊棟等の改修工事
平成24年 8月 (2012年)	「国立女性教育会館の在り方に関する 検討会」が報告書を公表
平成25年 9月 (2013年)	利用者400万人を超える
平成27年 7月 (2015年)	PFI(プライベート・ファイナンス・イニシアティブ) 制度導入



開館式で挨拶をする福田赳夫首相(当時)



皇太子殿下・同妃殿下行啓(当時)

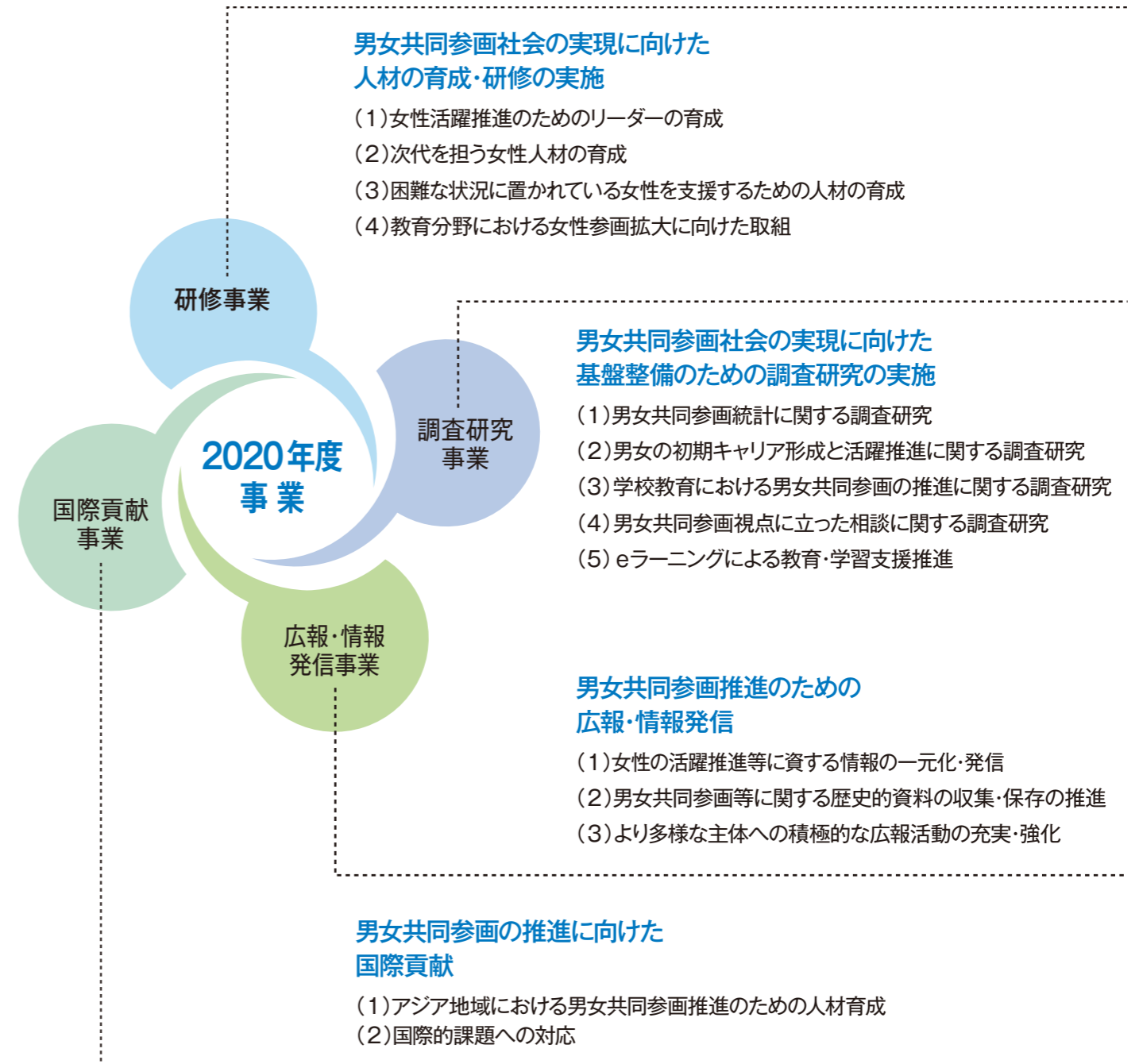


女性アーカイブセンター 10周年展

事業

NWECは女性教育にとどまらず、幅広く男性、若年層、大学や企業等を対象とした男女共同参画に係る事業を展開し、第4次男女共同参画基本計画等で示された政府の政策に沿って、第4期中期目標・中期計画を達成するため、研修、調査研究、広報・情報発信、国際貢献を実施する。

これまでに蓄積したさまざまな資源を活用し、女性の活躍を推進するため、地方自治体、女性団体、企業や大学を始めとした教育機関との連携・ネットワークを一層充実させ、広報・情報発信を行い、社会に対して幅広くアプローチすることで、男女共同参画社会の実現を目指す。



女性教育情報センター

情報サービス

<https://www.nwec.jp/facility/center.html>

閲覧	女性教育情報センター内で自由に閲覧できる。(NWEC本館2階) 開室:9:00~17:00 休室日:会館休館日、年末年始
貸出	館内貸出及び館外貸出、女性センター・図書館等を通じた館外貸出を行っている。
図書パッケージ貸出サービス	大学や高校、女性関連施設、公共図書館を対象に、様々なテーマにあわせて図書をまとめて貸出するサービスを行っている。
レファレンスサービス	利用者の学習・調査・研究を援助するために、当センター所蔵の資料や各種データベースを活用して様々な質問に答えている。電話や文書、eメールでも受け付けている。
文献複写サービス	所蔵資料について、文献複写サービスを行っている。電話やインターネット・文書による申込みも受け付けている。



情報研修プログラムの提供

利用者の希望に応じて、資料・情報の検索・利用方法等の実技研修を随時行っている。

展示の実施

所蔵資料の紹介を目的とする展示を行っている。

収集資料 平成31年3月31日現在

項目		和	洋	計
		累計	累計	累計
図書	図書	83,208	24,570	107,778
	地方行政資料	28,198	—	28,198
	計(冊数)	111,406	24,570	135,976
逐次刊行物	雑誌	3,306	765	4,071
	新聞	72	1	73
その他	新聞切り抜き	479,079	—	479,079
	オーディオビジュアル資料	370	4	374

研修棟図書館出張コーナー

入口や1・2階のラウンジに、女性教育情報センターの図書・雑誌を置いており、その場で自由に閲覧できる。女性教育情報センター(本館2階)にて貸出も行っている。



女性教育や男女共同参画施策等に関わった全国的な女性団体や女性の史・資料の収集・整理・保存・提供を行っている。目録や一部の画像はデータベース「女性デジタルアーカイブシステム」でインターネット公開している。

- ・本館3階の閲覧室では閲覧が可能(要事前連絡)。
- ・本館1階展示室では、「所蔵展示」と「企画展示」を実施している。



女性情報ポータル

“Winet”
(ウイネット)



<https://winet.nwec.jp>



● 文献情報データベース

女性教育情報センターが所蔵する図書、雑誌、新聞記事などが検索できます。

● 女性情報レファレンス事例集

女性関連施設でよくある情報相談(レファレンス)を、Q&Aの形式でまとめた事例集。

● 女性情報ナビゲーション

インターネット上の有用な資源への道案内

● 国立女性教育会館リポジトリ

会館の研究成果を永続的に蓄積・保存するデータベース。

国立女性教育会館作成の主なデータベース (件数は平成31年3月31日現在)

女性教育情報センター所蔵資料のデータベース	図書 (107,778件)	一般図書、中央省庁の調査や報告書、女性団体・グループ刊行の資料等を「女性情報シソーラス」に基づいたキーワードから検索できる。
	雑誌 (4,071件)	雑誌、大学・研究所等の紀要類、地方自治体発行の男女共同参画広報誌、女性団体・グループが発行したミニコミ等を検索できる。
	地方行政資料 (28,198件)	地方自治体の男女共同参画担当課/教育委員会等が刊行した資料を「女性情報シソーラス」に基づいたキーワード等から検索できる。
	和雑誌記事 (74,662件)	所蔵雑誌から選定した男女共同参画、女性・家庭・家族に関する記事を「女性情報シソーラス」に基づいたキーワード等から検索できる。
	新聞記事インデックス (479,079件)	以下の新聞記事を見出し、記事中の人名、新聞名、日付、キーワードから検索できる。[昭和52年10月~昭和63年]全国紙・地方紙約60紙に掲載され、話題となった女性(人材)に関する記事。[平成元年度以降]全国紙・地方紙約45紙に掲載された男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する記事。
女性関連施設データベース (概要485件/事業38,752件 情報事業 374件/相談事業 323件)	全国の女性/男女共同参画センター・働く婦人の家の概要、学習・研修事業、情報事業、相談事業について、毎年調査した各施設の現在の活動がわかるデータベース。	
女性と男性に関する統計データベース (398件)	女性及び男性の状況を把握する上で重要な日本の統計を、あらゆる分野にわたってとりあげたデータベース。統計表は、エクセル形式でダウンロードできる。	
女性のキャリア形成支援サイト	女性が様々な新しい分野へチャレンジし、生涯にわたり、主体的に選択しながらキャリアを形成していくための多様な事例(ロールモデル)、キャリア形成のための学習支援情報、関連情報を提供している。	

● 海外女性情報専門データベース

館内で利用可能なデータベース

● The Gerritsen Collection

オランダ最初の女性医師とその夫が収集した、女性に関する研究コレクション数千点の全文記事を収録。

● Gender Watch

女性問題に関する学術雑誌のほか、新聞、ニュースレター、パンフレット、会議録など数十万件以上の全文記事を収録。

利用状況

年度別施設利用状況 (昭和52年度～平成30年度)

年度	平成30年度			累計(昭和52年度～)		
	宿泊利用	日帰り利用	小計	宿泊利用	日帰り利用	小計
利用団体数	1,747	2,296	4,043	43,601	52,619	96,220
実利用者数(人)	36,174	66,148	102,322	1,433,729	1,494,932	2,928,661
延利用者数(人)	78,084	66,148	144,232	3,158,323	1,560,877	4,719,200
1日当たりの利用者数(人)	228	193	421	231	114	345
開館日数(日)			343			13,673

女性教育情報センター年度別利用状況 (昭和54年度～平成30年度)

年度	平成30年度	累計(昭和54年度～)
資料等利用者総数(人)	4,592	97,311
貸出数	図書(冊)	9,811
	雑誌(冊)	630
	研修用貸出資料(冊)	50
レファレンスサービス(件)	591	40,435
文献複写サービス(件)	689	21,131
館外貸出サービス(件)	343	4,502

※資料等利用者総数は、平成18年度より集計
 ■レファレンスサービス 昭和56年度開始
 ■文献複写サービス 昭和56年度開始
 ■相互貸借サービス 平成4年度開始
 ■図書パッケージ貸出サービス、個人貸出サービス 平成22年度開始

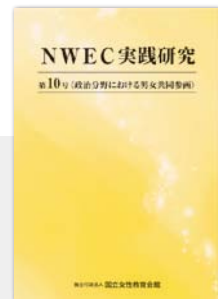


出版物の紹介



第63回国連女性の地位委員会(CSW)早わかり

平成31年3月に国連本部で開催された第63回国連女性の地位委員会(CSW)についての学習資料を作成した。第63回CSWの主要議題や合意結論、会期中に開催されたイベントに関する情報を掲載している。



NWEC実践研究

政治分野における男女共同参画をテーマとした『NWEC実践研究』第10号を刊行した。国際的な女性議員の比較や国内の社会情勢における女性議員の動向、2018年に成立した「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」施行についても実践の展開として紹介。その他、NWECが実施している主催事業の報告や日本国憲法に男女平等を記したベアテ・シロタ・ゴードンの展示についても掲載している。

その他の出版物はNWECホームページ(NWECとは/出版物・報告書)へ。.....

トピックス

2019年度事業から一部を紹介しします。



所蔵展示「ベアテ・シロタ・ゴードン展」

4月26日～11月4日の期間、女性アーカイブセンター所蔵展示「ベアテ・シロタ・ゴードン展」を開催した。

ベアテ・シロタ・ゴードン氏は、GHQ民政局員として日本国憲法草案作成に携わり、第14条「法の下での平等」、第24条「両性の平等の原則」の基となった条文を作成した。1990年頃からは、日本各地で講演活動を活発に行った。

女性アーカイブセンターは、遺族、友人、日本での講演活動で交流のあった女性団体から関係資料のご寄贈を受け、ベアテさんに関する資料を所蔵することとなった。これらの資料からベアテさんの生涯を振り返るとともに、戦前から現在に至る男女共同参画社会の形成について考える機会を提供した。



男女共同参画推進フォーラム

8月29日～31日に、全国から1,200名を超える行政、女性団体、NPO、大学、企業などの関係者が参加し開催。男女共同参画推進に関する課題の共有と解決策を探りつつ、ネットワーク形成を図った。

1日目の特別講演は、ニコール・A・ゴードン氏(日本国憲法に女性の権利を明記することに尽力したベアテ・シロタ・ゴードンの長女)が、母ベアテの業績を紹介しながら、女性の権利と平和構築を守ることの大切さについて語った。2日目は、シンポジウム「基本法から20年～今こそチャレンジ! 政治分野への女性の参画～」、3日目には、「多世代ワールドカフェ100人会」を開催。期間中は会館の施設を一杯に使用して、全国から公募した約60団体によるワークショップ及びパネル展示が展開され、熱気あふれた3日間のプログラムとなった。



講演会「ミルズカレッジのベアテ・シロタ・ゴードンアーカイブ」

1月15日に開催。ベアテさんの遺した資料は母校、米国ミルズカレッジに寄贈され、一部日本関係資料はNWECへ寄贈された。

ミルズカレッジ図書館でベアテ・シロタ・ゴードンアーカイブを担当しているジャニス・ブラウン氏を招き、コレクションの構築や提供についてお話しいただいた。



各種事業の状況については、ホームページをご覧ください。 <https://www.nwec.jp>

11月 NWECアニバーサリーウィーク

11月12日～16日、NWEC創立記念日に因んで、PFI事業者(株)ヌエックベストサポート(NBS)、会館ボランティア、NWECの三者が連携し、文化プログラムや交流プログラムなど、様々な学びの場を提供する「アニバーサリーウィーク」を開催。女性アーカイブセンター企画展示「女性と医学展」との連動企画で、荻野吟子の生涯を描いた「一粒の麦」を上映したほか、シネマトーク&映画上映会では、松本侑壬子氏(映画評論家)が、「ピリブ 未来への大逆転」の見どころを解説した。



また、初の試みとして、NWEC協定機関である女子栄養大学との共同企画を開催。NWECレストランとのコラボランチ、付帯施設菓子工房の焼き菓子類販売、同学講師によるミニ講座のほか、ボランティアによる茶会や寸劇など、どれも好評であった。同月12日～25日の「女性に対する暴力をなくす運動」期間中には、本館のパープルライトアップやNWECボランティアによるパープルリボン運動のPRも行った。

11月 企画展示「女性と医学展」

11月12日～令和2年5月10日の期間、女性アーカイブセンター企画展示「女性と医学展」を開催。

男女共同参画社会実現のため、さまざまな分野においてチャレンジした女性たちのあゆみをたどるシリーズ企画の11回目。今回は、昨年度発覚した医学部入試における女性差別を受け、医師、医学研究者をテーマとした。展示室では、大学入試学部別合格率の男女比、医師国家試験合格者の男女比、性別医師数推移等の統計パネル、関連新聞記事、公許女性医師第一号の荻野吟子らチャレンジした女性たちのパネルと関連資料、荻野吟子の生涯を描いた映画「一粒の麦」関連資料、現在活躍中の女性医師を紹介するパネルを展示した。



11月 学校における男女共同参画研修

11月21日～22日に、教育委員会や教育センター、初等中等教育諸学校等の管理職・教職員等が参加し開催。基調講演では、村松 泰子氏(日本女性学習財団理事長)が日本の男女共同参画の現状や「隠れたカリキュラム」等、学校現場に見られるジェンダー課題を挙げ、男女共同参画の実現に学校教育が大きな影響力を持っていることを指摘した。事例報告ではNWECの調査結果と事例をもとに、女性管理職登用が進まない背景や解決策についてグループディスカッションを行った。



2日目は、近隣中学校の協力を得て高崎 恵氏(オフィスピュア男女共同参画アドバイザー)が中学1年生を対象に多様性を認め合うワークを行った。午後は「性の多様性」の学習についての取組、外国とのつながりをもつ児童生徒に対する学校組織としての取組、虐待を受けた児童生徒への対応が紹介され、学校現場が抱える課題解決に向けたヒントを得た。

また、村松氏の講義内容をまとめた動画をYou Tube(NWEC Channel)で公開。男女共同参画の視点から、学校現場や教育実践についてどのように見直すかを考え、教育における男女平等の重要性について解説している。

12月 NWECグローバルセミナー

12月6日に開催。基調講演では、マデリン・ディ・ノーノ氏(ジーナ・デイビスメディアにおけるジェンダー研究所所長)が、白人/有色人種がダブル主演を務める家族向け映画の興行成績がもっとも高く、女性が主役を務める映画も高い興行成績を収めており、メディアやエンターテインメント分野にジェンダーと多様性の視点を導入することが現状を打開する道につながると論じた。

パネルディスカッション「メディアを通じた女性のエンパワーメント」には、基調講演者と3名の専門家が登壇し、コーディネーターの田中 東子氏(大妻女子大学文学部コミュニケーション文化学科教授)が、ジェンダー視点が欠如している日本のメディアの事例に基づき問題提起をしたほか、国際機関におけるSDGsやジェンダー平等を学習できる取組、地震や津波を経験した女性たちが、写真や刺繍という身近なメディアを活用した情報発信の事例について考察した。



12月 大学等における男女共同参画推進セミナー

12月20日に、「女性研究者支援から広げる大学等の男女共同参画」をテーマに東京都内で開催。全国の大学・高等専門学校等の役職員や男女共同参画に携わる教職員等96名が参加した。

基調講演では、岩淵 明氏(岩手大学長)が、様々な機関と連携し、岩手大学内にとどまらず、岩手県や北東北にまで範囲を広げながら、男女共同参画・ダイバーシティ推進を行ってきたプロセス、成果と課題、学長のリーダーシップの在り方などについて語った。パネルディスカッションでは、コーディネーターの伊藤 公雄氏(京都産業大学客員教授・ダイバーシティ推進室長)が日本の経済や学術分野の停滞の要因の一つとして、男性主導の多様性を生かすことができない社会の在り方を指摘。さらに、大阪大学、立命館大学、国立高等専門学校機構の現状や取組が紹介された。職員や学生も含めた学内全体が抱える男女共同参画の課題解決に向けて意見交換を行い、地域や企業など異質なもの同士のネットワーク作りの重要性等が語られた。



施設

秩父連山を遠くに望み、都幾川に沿った自然豊かな丘陵地にある施設は10ヘクタールの敷地内にある。自然との調和に配慮し、「陽に向かい陽に帰る」のコンセプトに合わせ、東側に研修棟、西側に宿泊棟、中央に池を配置している。

女性・男性を問わず、どなたでも利用できます。男女共同参画または女性・家庭・家族に関する学習をする場合や、高校・大学が教育活動として利用する場合には、一般の利用者と比べ、安い料金で利用できます。



《施設のご利用》

近隣市町村イベントでの会館リーフレット配布、パン・籠づくりなどの手作り教室、近隣高校と協力した音楽フェスティバル等を開催しているほか、地域のイベントや文化施設、温浴施設とコラボした宿泊プランにも、県内外から多くの方に利用いただいています。茶道や着付けなどの日本文化体験プログラムを提供。また、地域貢献活動として嵐山町内中学生の社会体験チャレンジ事業(職場体験)の受入れも実施。

レストランでは、ランチやバイキングのほか、イベント限定メニュー、手ぶらで楽しめるバーベキューなど、様々なお客様のニーズに合わせたメニューを提供しています。

(主な取組)

- ・宿泊室へのテレビ(A棟のみ)やアメニティの設置
- ・バーベキューや鍋、デザートなど 季節に合わせた料理の提供
- ・パン・お菓子作りなどの料理プログラム
- ・フェスティバルやコンサートなどの大型イベント
- ・手作り教室などの文化プログラム
- ・近隣施設と連携したお得な宿泊プログラムの提供



各施設の利用時間、料金等詳細は
(株)又エックベストサポートまで
お問合せください。
<https://www.nwec-bs.jp>
☎0493-62-6723

実技研修棟

■利用時間
午前 9:00~12:00
午後 13:00~17:00
夜間 18:00~21:00



音楽室 ■ 利用定員 約50人



調理室 ■ 利用定員 約30人



美術・工芸室 ■ 利用定員 約30人



幼児室 ■ 利用定員 約20人

宿泊棟

■利用時間
チェックイン 15:00
チェックアウト 10:00

種別	内容	A棟 (バス・トイレ付)	B棟 (トイレ付)	C棟 (トイレ付)	室数
洋室	1人用	38室	---	---	136室
	2人用	98室	28室	12室	
和室	2人用	2室	---	---	24室
	4~5人用	22室	14室	8室	
宿泊室合計		98室	42室	20室	160室



洋室



和室



ミーティングルーム (A棟 2F)
■利用定員 約50人
■利用時間 9:00~24:00

レストラン

■利用時間
朝食 7:00~ 8:30
昼食 11:30~13:45
ティータイム 14:00~16:00
夕食 18:00~20:00



施設の詳細については、ホームページをご覧ください。 <https://www.nwec.jp/facility/index.html>

施設

研修棟

■利用時間
午前 9:00~12:00
午後 13:00~17:00
夜間 18:00~21:00



講堂エントランス前



大会議室
■利用定員 160人(傍聴席38を含む)



講堂
■利用定員 602人



マルチメディア研修室
■利用定員 30人
(午前・午後のみ)



中会議室
■利用定員 40人



小会議室
■利用定員 12人



研修室 1~3F

研修室

研修室	室数
150人室	1
99人室	1
48人室	4
36人室	1
24人室	2
20人室	6

体育施設

■利用時間
体育施設、日本家屋施設とも。
テニスコートは午前・午後のみ
午前 9:00~12:00
午後 13:00~17:00
夜間 18:00~21:00



テニスコート
■全天候型 スパックサンドコート2面



体育館 ■バレーボール2面 ■バドミントン3面
■フットサル1面 ■バスケットボール1面

日本家屋施設

■利用時間
午前 9:00~12:00
午後 13:00~17:00
夜間 18:00~21:00



日本家屋「響書院」
茶道、華道、着付け、かるた、百人一首、作法教室など
日本の伝統・芸術・文化に関する学習や交流に利用
■茶室 2部屋(15畳、4.5畳)
■座敷 1部屋(10畳)

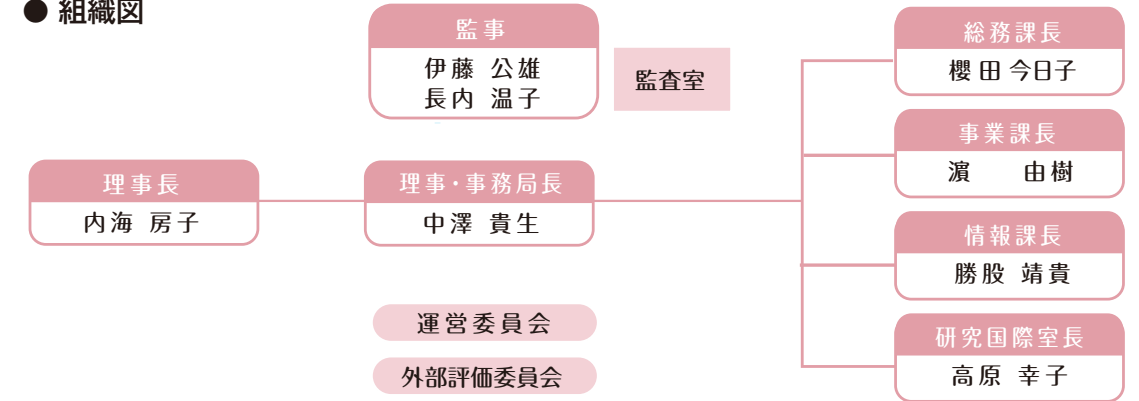


茶室「和庵」
京都裏千家家元の今日庵の「又隠(ゆういん)」を模した
本格的な茶室
■茶室 (4.5畳) 響書院とセットでの貸出

組織・決算

令和2年(2020)4月1日現在

● 組織図



● 歴代館長・理事長

在任期	職名	氏名
昭和52年7月1日～昭和57年7月9日	館長	縫田 暁子
昭和57年7月10日～昭和62年3月31日	館長	志熊 敦子
昭和62年4月1日～平成7年3月17日	館長	前田 瑞枝
平成7年4月1日～平成13年3月31日	館長	大野 曜

在任期	職名	氏名
平成13年4月1日～平成16年3月31日	理事長	大野 曜
平成16年4月1日～平成23年6月30日	理事長	神田 道子
平成23年7月1日～現在	理事長	内海 房子

● 運営委員会委員 (令和2年4月1日現在)

氏名	現職
石川 薫	埼玉県立総合教育センター 所長
岩熊 眞起	特定非営利活動法人女性技術士の会 前理事長
岩田 繁子	全国地域婦人団体連絡協議会 会長
大路 正浩	独立行政法人教職員支援機構 理事
大槻 奈巳	聖心女子大学現代教養学部人間関係学科 教授
田中由美子	城西国際大学国際人文学部国際交流学科 教授
納米恵美子	NPO法人全国女性会館協議会 代表理事
橋本かおる	公益財団法人21世紀職業財団 事務局長
橋本 紀子	国際婦人年連絡会 世話人
平林久美子	全国公立小・中学校女性校長会 会長
村松 泰子	公益財団法人 日本女性学習財団 理事長
諸角 文	埼玉県男女共同参画推進センター 所長

● 外部評価委員会委員 (令和2年4月1日現在)

氏名	現職
犬塚 協太	静岡県立大学 国際関係学部 教授
斎藤 悦子	お茶の水女子大学 准教授
夏目 智子	全国地域婦人団体連絡協議会 事務局長
萩原 貴子	株式会社 グリーンハウス 取締役

● 決算 (平成30年度、単位:百万円)

収入	
運営交付金	497
運営権対価等収入	51
その他	327
合計	875

支出	
業務経費	302
一般管理費	266
その他	327
合計	895

※百万円未満を四捨五入しているため、合計と一致しない。

